

## 田原本町住民協議会（第1回）議事録

日時	令和5年4月22日（土）9時00分から12時00分
場所	町民ホール
コーディネーター	荒井 英明氏（一般社団法人構想日本 特別研究員）
その他	参加者33名 欠席者3名

コ) コーディネーター、町) 田原本町職員、メ) 協議会メンバー

### 副町長挨拶

前回の施設レビューに続き、多くの方にご参集を賜り感謝申し上げます。本日から始まる住民協議会がとても楽しみで、わくわくした気持ちを持って迎えている。田原本町の公共施設がどうあるべきか、ひいては田原本町の未来がどうあるべきかを皆様方にご議論をいただく。当該施設を利用したことがある方、利用したことがない方、老若男女様々な方が来ていただいている。ぜひ、そういった立場の違う方がいる前提のもとにおいて、互いの意見を尊重しながら、忌憚のない意見を交換していただきたい。また前回の施設レビューの際に、行政としての田原本町役場の思いが弱いのではないかとご指摘をいただいた。それを真摯に受けとめて、町で考え、この町民ホールの利活用として、一つ目の議事である保健センターの移設を提案する。住民協議会の準備の段階においては、町としての思いや提案はなるべく避けるべきではないかと考えていた。なぜなら今回、住民協議会～自分ごと化会議～ということで、本来の趣旨は、行政として持っている公共施設や町の財政状況が今どのような状況にあるのかをすべて出した上で、住民の皆様にも自由闊達なご議論をいただき、町の課題解決につなげていく。そのような趣旨があったので、町としての思いや提案は、自由な議論を阻害する恐れがあると考えていたので、一歩引いて進めていた。一方でそれがなくなかなか議論も進まないところもあると思うので、町としても、思いや提案を伝えて、皆様と一緒により良い議論の場を作っていきたい。最後に一般論であるが、役場の職員、あるいは市役所、県庁、国家公務員もそうだと思うが、自分が担当しているときに、事業や施設を廃止する判断をしたい職員はいない。なぜなら、住民の方から反発もあるし、矢面に立たされるからである。だが、私どもは20年後、30年後の田原本町のことを考え、今行わないといけな使命と覚悟を持って、この場に臨んでいる。そして、住民の皆様も休日に集まり議論をいただけることはやはり、田原本町の未来のことを考えていただいていると理解をしている。行政もここにいる住民の皆様も田原本町がどうすればより良くなるのか、そうした思いを皆持っているということを共通認識として、その点を理解し、互いの意見を尊重し合って議論をしていただきたい。住民協議会の結論は、まだ誰にも分からないが、どういった結論になっても田原本町にとっては大きな前進だと思う。今回から3回にわたり住民協議会を開催するが、ぜひとも力添えをいただきたく、よろしく願いたい。

## 論点

- ・ 町民ホール 論点①保健センターの移転について  
論点②新たなサービス向上について
- ・ やすらぎ体育館 論点①施設の利用について  
論点②新しい施設（中央体育館・小中学校）での利用について
- ・ 老人福祉センター 論点①施設の活用方法  
論点②実施施設を見直す場合のサービスについて

## 協議の流れ

### ① 町民ホール 町の提案（保健センター機能の移転について）

コ) 前回の施設レビュー時に町民ホールをどのように活用していくかについて議論したときに、民間活力の活用、民間サービスの導入等はどうかという提案をいただいた。併せて町としては、どのような提案があるのか、という議論もあって、今回の住民協議会時に町から考えを示してもらえないのではないかということで終わっている。まずは町の担当者から、様々な活用方法の提案を受けて、それから町としての提案について説明をお願いします。

町) 前回の施設レビューでは町民ホールの利用方法として、フリーマーケットや特産物の販売、農産物の直売所、ふるさとハローワークなどの就労支援施設、コンビニ、コーヒーショップ、託児所、キッズスペース等多数のご意見をいただいた。いただいた提案は確かに町民の利便性が高まり、町が活性化するよい手法である。町として、協議会メンバーや、有識者の方々の意見を踏まえて改めて検討したところ、民間施設を含めて、他の施設で代替利用できるものについては、あえて町民ホールで実施しなくてもよいのではないかと、また、新規事業については財政的な面からも非常に厳しいものがあり、結果として、「縮充」、施設は減らすがサービスを充実させるという考えのもと、民間サービスよりも行政サービスに重きを置き、町の中心地に位置するという立地条件を最大限活かせるよう、既存の施設を移転してはどうかという結論になった。町としては、現在奈良県の施設を一部借りて業務を行っている保健センターを移転してはどうかと考えた。保健センターは町の西に位置し、そこに行く交通手段も少ない。また施設の老朽化も進んでいることから、町の中心に位置する町民ホールに移転することで、町民の方々の利便性が向上すると考える。また、所管課として健康福祉課、こども未来課は、役場庁舎内にあるため、母子保健と児童福祉を一体ものとして事業を進めることが出来るようになり住民サービスの向上に繋がると考え、既存施設の中では保健センターを移転するのが最適であると考え。

コ) 町から提案を受けた民間主体の事業について、利便性の向上はするが、公共施設内に誘致しなければならない大きな理由がない、またそれに伴う経費の負担が非常に難しいという意見について、意見がある方はどうか。

メ) 便利にはなると思う。

コ) 他にはどうか、例えば一時的に活用するのであれば別の施設でもできるという町の説明

に対してどうか。意見が無いようなら次の保健センターの話に移るが。それでは保健センターの説明を担当課からしてもらおう。

町) 施設シートと事業シートを使いながら説明をしていく。保健センターは奈良県が所有する健康づくりセンターの建物の東側を借りて使用している状況である。もとはプールであった部分を平成 23 年に改修工事をして、平成 24 年度から保健センターとしての事業を行っている。現在は健康福祉課、こども未来課の二つの課が所管し、共同で業務にあたっている。職員は、保健師、助産師、栄養士、歯科衛生士、子どもの発達相談員や、保育士等、専門職の割合が多い部署である。保健センターは全ての町民の健康づくりに関して事業を行う施設である。主な事業は母子保健、子育て支援として、母子手帳の交付、乳幼児健診、子どもの発達相談、新生児や乳幼児のいる家庭への訪問等。健康づくりの為の事業はがん検診、歯周病検診等。感染症対策として、乳幼児や学童期、高齢者を対象とした予防接種事業。一次救急として磯城休日応急診療所の運営を行っている。次に保健センターの維持管理費であるが、令和元年から 4 年にかけての総支出額、令和 3 年度以外は毎年 600 万円程度となっている。令和 3 年度が他の年度より高い原因は工事の修繕費で 152 万円の支出があったためである。保健センターの利用状況について、利用者数は令和 4 年度は 7000 人、1 日あたりの利用者数が 29 人となっている。これは、検診や相談、予防接種等の手続に来られた方全ての数を計上している。実際の利用状況としては、事業が有る日と無い日でかなりばらつきがある。乳幼児健診では 20 組ぐらいの子どもと保護者が来所され、非常ににぎやかである。がん検診の日では 80 名から 100 名程度の方が受診に来所される。事業が無い日は個別の相談や手続きに来所されるといった状況である。施設に関する評価としては、一つ目に保健センターが町の西に位置していることから利便性に課題があるのではないということ。二つ目は、健康づくりセンター、国保中央病院と隣接はしているが、それよりも役場のサービス窓口として相談や支援のため、ワンストップであることの方が非常に効果的ではないかということ。本庁舎近くに保健センターがある必要性が高まってきていてそのメリットも大きいのではないかと考える。三つ目は施設の修繕に関する費用である。健康づくりセンターは建築後 30 年以上経過しており、経年劣化に伴う修繕費の費用が計画されていることから、それを負担する必要があるということ。次に事業評価の課題について、がん検診、がんによる死亡率の減少に加えて、生活習慣病の予防、重症化予防などを役場庁舎内の関係課と今以上に効率的に進めたいと考えている。従前は保健センターで健康相談をして対応していることが多かったが、徐々に役場内の長寿介護課、保険医療課等と連携をして進める業務が多くなってきている。子育て支援に関しては、妊娠期から切れ目のない支援を続けることが大切であるが、現状こども未来課が役場と保健センターの 2 か所で業務を行っているため、支援を受けるための手続きだけで終わってしまうようなことがある。支援が必要な方にその支援が途切れてしまわないような体制、職員間の距離の近さを活かし、チームワークで支援にあたる、サービスにすぐつながられる、それが当たり前になれる環境を整えたいと考えている。そこで、保健センターが役場近くに移転をすることの得られる評価として、行

政が考える二つの点について、メンバーの皆さんにご意見をいただきたい。一点目は、町の西側から中央になることで、町民の方の利便性が高まることを期待をしているが、それについてはどうか。二点目は、町民の方の手続きや、相談支援の場所を1か所にして、行政サービスをワンストップ化することにより、サービスの内容も充実させられると考える、この考えについてご意見を伺いたい。

コ) 保健センターで健診やサービスを受けた方はどんな印象だったか。利便性についてはどう思うか。

メ) 町民ホールのある場所にあった方がいいと思う。

メ) 役場の近くにあった方がいい、何で町の西側にあるんだろとすごく疑問であった。健診には駅から歩いて行っていたが、病院の近くだからわざわざそこに設けたんだろと思うが。

メ) 国保中央病院の駐車場が広く、そこに駐車できる便利さがある。

コ) 子育てや子どもの健診等で利用された方はどうか。

メ) 入口がわかりにくい、場所は遠いが駐車場は広いし、施設の中も結構広い。それが町民ホールに全部入るのか。

コ) 町民ホールへ移るとだいぶ手狭になるのが心配という意見だが、担当課はどう考えているのか。

町) ご意見のとおり、こちらに移った時のデメリット、心配している状況は狭くなるというのがある。ただ、そこは上手く事業のスケジュールを調整し、一回あたりに集まる人数を調整することで乗り切れると考えている。

メ) 子育ての相談は、誰にも聞かれないような個人的な内容が多いと思うので、相談する時に、この広いスペースを仕切ってうまくやっていけるのかが気になる。

町) 平成29年度にこども未来課が出来た時に、役場に子どもの相談、福祉の相談を一つの窓口にとまとめた経緯がある。そこから個人のプライバシーを守るために専用の空間を確保したいので、保健センターに移ったという経緯である。特に町が力を入れているのは子どもの発達相談である。子どもが生きる生活、家族の生活そのものの相談で、子どもたちが安心して動ける場所の確保がすごく大切になるので、相談室も広い部屋をとってやっているところである。町民ホールを使うとなったら区切って安全な部屋に改修等したらここでも使えろと考える。ここで相談し、福祉の制度も利用しながらご家族の負担を軽減するようなコーディネートがすぐに出来るのがメリットである。現状は町役場の窓口で相談の予約を取り、保健センターで相談を実施している。やはり場所が変わることで、相談者が出直すことになり、役場の窓口で話をした担当者とは違う担当者と相談する事になるので予約はするがキャンセルになってしまうということがある。町民ホールで区切って安全に、プライバシーも守られて相談が出来るのであれば、本庁のこども未来課とつながった場所のメリットを活かして真に助けが必要な方たちの力になりたいと考えている。

メ) 移転する案についてはいい案だと思う。ただ、一番心配なのはスペースの問題、スパー

的に町民ホールで大丈夫なのかということ。また駐車場についても全体の費用の約 40% である 260 万円を使って駐車場の確保をされているが、役場でも確保できるのか、駐車場代が年間 260 万円削減できるというメリットもあるが、それらの問題がどう解消されるのかということを知りたい。

町) 駐車スペースについて、町民ホールの西側、以前町民広場であった場所を駐車スペースとしている。行事等で埋まることもあるがそのあたりは調整しながら利用していく形で考えている。

コ) 他に保健センターが町民ホールに移転することへの心配事等はないか。

メ) 休日応急診療事業についても町民ホールの中に入るのか。先ほどから議論になっている床面積が非常に狭い、保健センターに比べて約半分ぐらいになるのではないかと、どう考えても無理があるのではないかと、特定の事業だけを持ってくるのか、その部分の説明が無かったのではよくわからない。

町) 今のところ、休日応急診療所も含めての移転は考えていない。休日応急診療所は磯城郡三町で運営しており、本町だけで決めることは出来ないため、別の場所への移転等はこれからの検討事項として考えていきたい。

コ) 休日応急診療所が近くにあるというのは一つのメリットだと思う、これは保健センターの移転だけではなく休日応急診療所をどうするのかというのとも考えてほしいという意見である。

メ) 保健センター自体には行ったことが無いが、国保中央病院と健康づくりセンターの隣で場所、状況はよく認識している。町民ホールに移転したらスペースがかなり狭い、それをどう凝縮するのかという点と、プライバシーの問題で相談を隔離して出来るのかと、そういうのを入れるとスペースがより狭くなると思う。本庁舎の方に移転をしたいということであるが、スペースの足りない部分は本庁舎で補うことが出来ないのか。

コ) 相談の多い日や健診の日に役場の会議室や他のスペースを活用することは出来るのかという意見。

町) 改修して町民ホールだけしか使えないということではなく、会議室や他の公共施設を活用していく。例えば親子クッキングであれば調理台のある施設を使おうと考えている。

メ) 説明を聞いていても抽象的で、例えば具体的に何件の相談を受けて、継続しなかったのが何件あったのか、継続をしたけども、継続にハードルがあったのが何件あったのかという点で、どのように分析をしているのか。一番この移転の大きいデメリットはスペースの問題、プライバシーの問題。一方で保健センターにあるデメリットは離れていて行きにくいなどいろいろあると思う、それぞれのメリット、デメリットには大小の規模があり、段階をつけて整理していかないといけない。移転することでどれぐらいの費用がかかるのか、将来的にこのような金額が増えるというような全体の展望がはっきりしない。今の説明と皆さんの議論を聞いて 10 年、20 年先を考えた時にどちらがいいのかは判断しにくい。移転は良いなと思うが、アクセスの点、スペースの点等のポイントを整理したうえで、金額等を数値化

して整理をしていく方がいいのではないかと考える。

コ) 客観的な分析、中長期的なビジョン、町民にとってどれだけのメリットがあって、デメリットがこれだけあるということ積み上げて、最終決定に進むべきだという内容のご意見である。今後町の担当者は協議会メンバーだけでなく全町民に説明する際には、上記のような資料を整えて、説明をしていただきたいと思う。改善提案シートの論点の①は、保健センターを移転することについて、論点の②は新たなサービスの向上について、ご提案をいただければと思う。

メ) 現存の保健センターは、デメリットがあるのかということが一つ。町民ホールを活用し新たなサービスをやるということについて、近くにあるということで役場との連携ができるというメリットがあるのは理解できる、だが、デメリットの場所的には狭い、駐車場が狭いというのも西側の駐車場を利用できるということで少し理解は出来たが充分には分からない。

町) 一例になるが、例年 10 月から 12 月の間に高齢者のインフルエンザの予防接種の実施期間がある。年間高齢者の約 50%の方、大体 5000 人ぐらいが受けられる。田原本町外の医療機関で受ける場合は、保健センターでの手続きが必要になっており、病院や役場で手続きしてくださいと説明を受け本庁舎に来庁される方が毎年多くおられる。役場では手続きできないので保健センターを案内することになるというのが毎年起こっている。大体 5000 人の中で 700 人ぐらいが去年は町外の医療機関で接種を受けている。また、今使っている施設が老朽化していることがデメリットである。

町) 現状のデメリットは、子ども福祉の手続きは役場でしかできない転入転出の手続きの流れで、児童手当、保育所、幼稚園等の手続きがあり、子どもには等しく予防接種を受けてもらう必要がありその手続きもしてもらい、後日保健センターから予防接種に必要な書類が送られてくるという仕組みだが、その場で書類を受け取らないので送ってこられても何の書類かわからなくなってしまうことがある。そのため直接担当者が顔を合わせる必要があると感じている。田原本町には 2 か所の遊びの広場という場所があり、そこでも子育て相談は日常的に行われているが、深刻度が増したような相談については、どうしても保健センターの専門のところでの相談に繋がれてくる。相談場所はたくさんあるが、内容によってすみわけが出来ている。そんな中で、相談が必要な方が福祉の窓口には現れるが、次に、必要な保健センターの窓口には繋がりにくくて、私たちは目標として、幼稚園に入るまでに必要な方には療育を開始し、そして幼児期にはそれを終えて、小学校にはスムーズに生活を開始できるようにところまでの発達支援を行いたいと思っているが、それがどうしても遅れてしまうケースが年に二、三件ある。最初に福祉の手続きに来られた時に繋がれたらもう少し早く支援に繋げることが出来たのではないか。そういうところが離れている所のデメリットであると考えている。

町) 先ほどの施設の老朽化について、建設から 30 年以上経過している事、今後中規模、大規模な修繕が予定されている事、例えばエレベーターの更新等でかなりの費用が掛かるこ

とがデメリットの一つであると補足させていただく。

メ) 移転に賛成の側から意見をさせてもらう。役場に来るとすごい時間がかかるから、できれば一回で済ませたいので、まとまっておいてほしい。いろいろな場所で手続きとなると、役場に行くのをやめておこうと思ったり、民間の方がサービスが充実しているのではないかと感じてしまう。なかなか忙しくて役場に来れないのにあちこち行かされると大変と思う。保健センターが何をやっているのか知らなかったが、町民ホールの方が人の流れが多く知るきっかけになると思う。駐車場等の問題は予約制にして整理する等、アプリを作って人の流れを管理してちゃんと対応する。その方が信用に繋がるのではないかと考える。時間がかかるというのが一番解決してほしい問題なので、一緒にした方がいいと考える。

メ) 役場によく来るが、縦割り行政で、これはうちの担当ではないとかよく言われる。こだわりをなくして部署同士の繋がりを作る。サービス向上精神がないと役場に足を運ぶのが億劫になってくる。だからそういう部分を改善してほしいと思う。仮に役場に行ったら受付で用件を聞き、各課に電話を繋いでもらってすぐ対応してもらえる、そういった部署関わらずの連携というものをもっとしっかりして、自分の担当ではないから知らないというような態度はとらないでほしい。

コ) 今回は施設をどうするかというのがメインの議論であるが、ソフトのサービスの連携をどうするかということ。常に表裏一体繋がっているものだと思う。特に健康や子どもの問題は各部署の担当が関わって問題が非常に多い。一つ終わったら次の部署に行ってまた一から話すということが起こるので、ぜひこの施設を見直す機会にサービスの横の連携を深めてサービスの向上につなげていってほしいという意見である。

メ) 提案的なことであるが、サービスの面で子育て世代などにスケジュールをわかりやすく発信してもらえるような、身近なLINEで情報発信など、簡単な相談であればできるようなサービスも欲しいと思った。

コ) SNSの活用という話が出たが、町として実施しているか。

町) 令和4年度からオンライン相談を提案している。ただリアルタイムに自席で相談を受けるわけにはいかないの、時間を決めて、この時間から何人という枠を設けて予約していただく、Zoomを使っての相談を用意はしているが、案内不足の為かまだ利用者がいない状況である。LINEでの相談を取り入れている自治体もあるが、個人情報が入るやり取りをどなたかわからない状態で不用意なことを返したりとか、職員が職場にいない時に助けを求めていたのとなつて、対応が後手後手になつてもいけないことから、導入出来ていないところであるが、ぜひSNSやLINE等を使った、自分のペースで相談支援するような環境づくりをどのように取り入れていくかを検討しているところである。

メ) いろんな意見を聞いて、保健センター機能が町民ホールに移ると利便性は高まると思う。ただ、利便性が高まれば多くの方が集まることになる、そうなるとう最初の課題にあるような駐車場の問題やスペースの問題がどうしてもでてくる。自分も今子育て世代であるが、妻と保健センターやふれあいセンターにもよく行く。ふれあいセンターはかなり端の方にある

ので、なかなか利便性としても課題があると思う。町民ホールで保健センター機能として事務所を作り、相談するのはいいと思うが、集まる町民の方が高齢の方や、子育て世代の方が集えるようなところは、町の他の施設を活用しながら、人が集まる場所というのも並行して考えていただきたい。

コ) 住民協議会の3回目の最後に今後の施設のあり方について、施設の役割分担っていうのを整理する時間が出来たらと考えている。

メ) 今まで町民の利便性のいろいろな議論だったが、経費について伺いたい。施設シートによると建物維持に関する経費について、大体600万円前後であるが。今日のメインテーマである保健センター機能の移転、統合について、もし移転した場合は施設維持費である600万円の経費が浮いてくるということか。その後の建物は取り壊すか、閉鎖して、廃墟のまま置いておくのかという点と、事業シートにおける年間1億4000万円、5000万円についてこの経費は変わらないということか、その辺を確認したい。

町) まず事業シートについて、事業にかかる経費であるのでこの費用は特に変わることはない。最初の質問の施設維持費について、電話料などは多少残ると思われるが、実際移転したときに浮いてくる費用は駐車場代261万3千円と各種保守点検等の委託料が不要となる。保健センターが移転した後の建物であるが、所有自体が奈良県なのでどのようになるかはまだ決まっていないが、移転したことでかかる経費というのではない。

メ) 保健センターが、町の中心に来て利便性が上がるのはすごくありがたい。課ごとによって専門性があるのでスムーズになるように今後期待していきたい。

メ) 保健センターが移転するとなれば元々の保健センターは、無くなるのか。利用者があるなら別に無くさなくてもいいのでは。

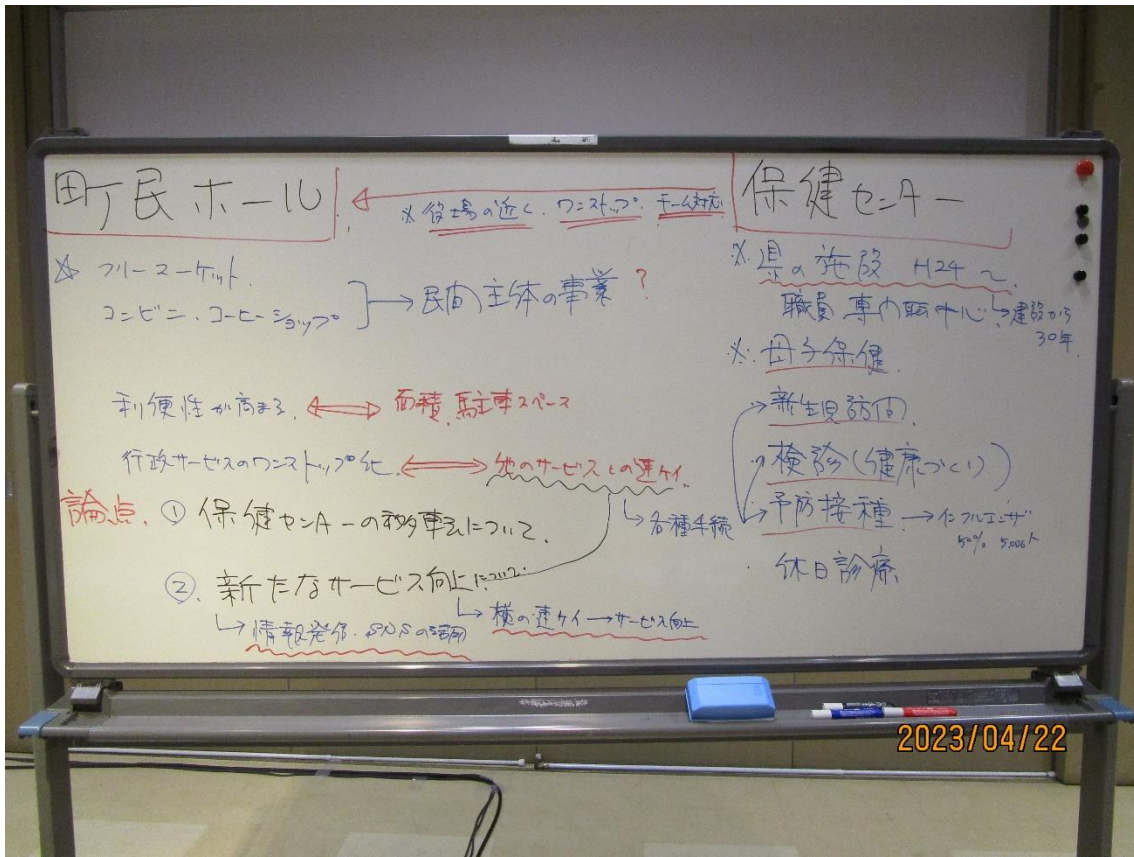
町) 今の保健センターは町民ホールへ移転して、奈良県から借りていた建物を返すことになる。そこをどのように今後使うかは奈良県が決める内容になる。

メ) 1日あたりの利用者を見て、利用している人がいるなら、自分は移転してなくてもいいと思う。

コ) 時間の方も迫ってきたので、先ほどの論点①、論点②で改善提案シートへの記入をお願いする。この二つ以外でこういうポイントもあるという方はどちらの論点の所を書いていただくか或いは自由記載欄に意見と書いていただく様、お願いする。

ホワイトボードの写真





## ② やすらぎ体育館について

コ) 施設レビューのまとめの4ページに、やすらぎ体育館の記載がある。協議会のメンバーの判定結果は現施設を使えるまで使い、廃止の方向性とする意見が大多数であった。また、実施されている事業についても、他の施設で行う、その施設自体の見直しや、その事業そのものも見直したほうがよいのではと意見があった。特に、協議会のメンバーからいただいた意見の中で非常に柔軟な考えだと思ったのが、廃止するまで、耐用年数までの間、どのように活用するかについて、民間に思い切って貸してはどうか、今まで役場中心でやったことのない新たな事業を、体育館で活用したらどうかなどの意見が出てきた。この前回の結果を踏まえて、また今後の方針など、町の担当から説明をお願いします。

町) 前回の施設レビューでは、貴重なご意見たくさんいただき、感謝申し上げます。住民協議会資料のやすらぎ体育館の施設シートにあるように、現在、貸館を中心とした事業を展開している。利用状況は約8割の稼働率があり、高い水準である。その一方で、開館後、約40年を経過しており、施設の老朽化が進んでいる。年間の維持管理経費については、人件費も含めて年間約450万円程度となっている。この現状から、今後、体育館としての機能を果たすために、近い将来の大規模もしくは中規模改修が必須である。施設の今後の方針は、47年が法定耐用年数のため、それまでは出来る限り使用するという方向性を考えている。耐用年数経過後は、中央体育館があるので、機能統合をしていく方向で考えている。課題の解決

策は、前回の施設レビューでご意見いただいたように、民間の力も活用しながら、廃止まで施設を維持機能していくことを検討する必要がある。維持管理経費を少しでも賄えるような形での、受益者負担の適正化に関しても、検討する必要があると考えている。廃止時の代替施設に関しては、町内の中央体育館、各小中学校の体育館、近隣の市町村の公立の体育館を考えている。廃止までの施設の有効活用につきまして、今後、皆様と一緒にご議論ご協議をさせていただきたい。

コ) 1ヶ月経って、他の意見があったり、現時点で何か新たな考えがあったりすれば、お聞きしたい。

メ) 先日、体育館を見に行った。外壁、屋根は既に老朽化している。塗装や天井、壁も古くなっているが、まだまだ利用できる。床は綺麗に設置されている。使っていきべきだとは思いますが、外壁、屋根を改修してまで、使うべきではないかと思う。その横で、清掃センターが公園にされているが、それも色々利用方法があると思う。解体費用等を含めて1度試算されてはどうか。外壁と屋根だけであれば、約6億円もかからないと思う。今後も使うのであれば外壁と屋根だけを改修し事業を実施してはどうか。また施設利用の料金が、安いと思う。照明など、夜間に別途でとられているが、それでも安い。その辺を調整すると、まだ、建物としては使えるとは思う。

コ) 民間の活用で、民間に体育館を丸ごと貸したらどうか、民間事業をもっと入れたらどうかなどという意見もあったが、その辺についてはどうお考えか。

メ) 民間に委託するとなったら、恐らく内部の塗装や改装が必要になってくると思う。現状のまま民間に、施設を使っただけという形を取るのであればいいと思うが、やはり改修してまで、民間に出せば費用的に莫大となるので、それはどうかと思う。

コ) 屋根や外壁など、大規模改修ではないが、数年間、延命させるためにどのぐらい費用がかかるかの積算を出したことはあるか。

町) 具体的な試算は行っていないが、数千万円単位の費用が必要になると見込まれる。

コ) 参考までに数千万円単位の費用を投下すると、何年ぐらい延命できるか。

町) 鉄筋コンクリート造りの体育館が法定耐用年数47年と規定があるので、単純に計算するとあと6年である。内部の使用状況は、丁寧にご利用いただいているので、比較的良好な状態に保っているところと、照明に関しては平成29年度だと思うが、LED化しているので、もう少し丁寧に使えば、法定耐用年数を超える利用は可能と考えている。

メ) 官公庁の場合は、耐用年数を超えたら利用はできないということか。

町) 法定耐用年数を超える利用ができないわけではない。実際の状況を見て、更新をするのか、廃止するのかという判断になる。

メ) 内部は結構綺麗に使っていただいて、同じくこの時期に清掃センターの誘致の活動で、十六面公民館及び平野小学校前の公民館の建設があった。十六面公民館の場合は結構綺麗に使われている。これは地区の方が、綺麗にされて、植木も綺麗に刈り上げて、外壁も屋根も綺麗な状態である。同じ時期なのでこれは行政の問題かなと思う。だから、もう少し前に、

外壁等いろんなことやっていたら、もっと延命措置が取れたのではないか。費用の計上を出来る方が町に必要だと思う。やはり塗装関係でも、20年でやるとか、防水関係に関しても、普通は10年、難しければ20年でも町として計画性を持ってやれば、もっと耐用年数も延びてくると思う。多分現状のまま使用しても、結構持つと思う。雨漏り等はあるか。

町) 昨年度も屋根の瓦ではないが、一部剥がれている部分があったので、保守をしている状況である。

メ) 雨漏りでなければ、建物は結構もつが、それが一番心配である。地域の方が結構、利用されているので、出来るだけ耐用年数プラスアルファでも良いので利用していただきたい。

コ) 受益者負担の見直しはどうか。例えばいろんな考え方があって、この施設は、耐用年数が近いから、最後は安くするという考え方もある。最後の何年かを少しでも伸ばすために、受益者負担を高くして、そのうちの幾らかでも、維持管理費に回すという考え方もある。いずれにしても、この残り数年間、町民が最大限活用できるかというのが一番の町民にとっての利益となってくると思う。

メ) 先週、体育館を見に行ったが、入口は普通の体育館のように、受付の部屋があるが、誰もおらず、寂しい感じだった。どこから中に入るのかもわかりにくく、カーテンを開けて入ると、利用者がおられ、お話を伺うと、週2回、活用されているとのことであった。床はかなり綺麗だったが、利用者の声は、掃除が行き届いておらず、トイレは汚物入れもたまっただけで全然掃除されていない状態であるとのことであった。管理人は鍵の開け閉めに来られるのみである。これは磯城シルバー人材センターの業務委託になっており、費用が年間委託料166万4000円である。1月当たりでは約13万円であり、適正かどうかを感じた。利用者は、とても楽しんでおられる様子だったが、建物の耐用年数等の問題もあって、いずれは廃止になっても致し方なく、中央体育館の方に統合されると考えた方がいいと思う。それまでの間は、バドミントン、バスケットボール、フットサル等で活用されているので、いろいろ改善点があれば改めたらいいと思う。また、朝夕の鍵の開け閉めは、役場の担当部署の方が出来るのではないかと思う。掃除についても、毎日でなくても、週1回、2回など、そのような形で出来たら約160万円は不要と思う。

町) やすらぎ体育館は、職員が常駐している施設ではない。利用されるタイミングでシルバー人材センターに、鍵の開け閉めを依頼している。トイレ等の清掃についても、毎日入っているわけではないので、汚いというような状態があると思うが、鍵の開け閉めのタイミングで、簡単な清掃もお願いしているが、十分に行き届いてないところもあるという認識している。職員が常駐もしくは開け閉めを日々行うのは、体制の問題でなかなか難しいため、シルバー人材センターに依頼している。

メ) 体育館は小中学校のものを流用するべきで、また、もっと簡単に使えるようにするべきである。先ほどの約166万円の委託料も業務を見直した方がよいと思う。単に掃除するだけであれば、1日5000円で契約し直すなど、やり方があると思う。トイレも毎日掃除しなくても週に1回ずつ掃除したらいいと思う。

町) 利用者の声も聞き、見直しできる場所は見直したい。

コ) 提案シートの論点については、まず①は、施設の利用について、廃止を前提とした場合、廃止までの間、どういう活用方法が町民の皆さんのためになるか、とする。例えば、意見があった、丁寧に管理して、使い勝手を良くするなど、また、今の使い方ではなく、スポーツ以外でも幅広く使えるなど。②は、中央体育館や小中学校の体育館に利用者が移った時に、何か配慮してあげることはないか、とする。例えば意見があった、小中学校の体育館は、今使っているグループの中にやすらぎ体育館のグループが行けば、枠の配分など、いろいろな調整が必要だと思う。また中央体育館では、スポーツに特化したようなグループが実施しているところに、別の競技の団体が行くので、新しい施設へ移行した時の利用について、この2つをポイントとして、ご意見をいただければと思う。これ以外のポイントが、また、他にも課題があると思う方は、自由記載欄に課題や改善案を記載していただきたい。

メ) 今の話から離れるが、田原本中学校の前に、以前に使っていた体育館があったと思う。確か、取壊しになることを聞いている。担当部署が違うかもしれないが、それに対しての予算はどうなっているか。取り壊してその後どうするかという進め具合はどうなっているか。それをやすらぎ体育館の方で、参考にしたいと思う。

町) 以前であるが、田原本駅周辺について、県と包括連携協定として、今後のまちづくりについて検討した時期がある。その上で、国の方で地籍調査をしているところである。その計画と合わせて体育館も、今後どうするかを検討していたところである。現在、柳町周辺が豪雨の時に、内水氾濫が起こる。近鉄の高架下のアンダーパスも水がつくので、現在、町内何か所かを内水対策をしているが、中学校前の第一体育館を内水対策として活用する方向で検討しているところである。

コ) 具体的な解体費用は積算できているか。

町) 解体費については計画の最中なので、具体的にいくらかは、まだ決定していない。

メ) それは町の事業、県の事業、もしくは国の事業のいずれになるのか。

町) 補助をもらいながら、町の事業としてやっている。

メ) その費用が出るのであれば、やすらぎ体育館にも適用できないかと思った。田原本町は史跡の多い場所で、家を建てる際も、土地を掘ったら何か出てくるため工事がストップするような地域である。

町) 内水対策で補助をもらいながら町が行うが、今年度についてはその設計を行いたいと考えている。以上によりやすらぎ体育館の方とはちょっと性質が違うと考えている。

メ) 公園のシバザクラが綺麗である。たびたび散歩とかで、車で行くことがあったが、現地へ行った時に体育館が開いていたことはなかったのも、実際に利用されているのかと思いつつ話を聞いていた。私は体育館の稼働率 80%という実感はなかった。やはり公園に何かしら花が咲いていて、環境が整備されていることは良いと思う。少し足を伸ばせば、広陵では馬見公園など大きい公園がある。そのような公園があれば良いと思った。

コ) 体育館を見たときに同じことを思った。あの周辺に古墳の形の公園があって、シバザク

ラの季節は綺麗だろうと思う。かつ、公園の中にトイレがあるので、あのエリアにかなりの町民の方が来ることを見込んで公園を作ったと思った。トイレの管理は、体育館の管理と一緒に、別か。

町) 公園の中にある屋外トイレに関しては公園の担当部署が維持管理をしている。

コ) 意見があったように、公園との連携も一つあるのかもしれない。体育館と公園は、併設されているが、課が異なるため、ソフト事業の連携はなかなか難しいということではなく、連携も視野に入れてはどうか。残り数年であるが、公園と連携した活用も必要であると思う。

メ) やすらぎ体育館の利用料は中央体育館の2分の1であるが、残りの3年間、施設利用料を上げると、今利用されている方は、恐らく中央体育館を利用すると思う。そうすると、ドッグランなどでの活用も検討する余地がある。恐らく、初期投資も公園を柵で囲ったり、体育館内に犬が滑らないように、滑り止めを敷いたりすることで済むと思う。このまま使い続けるよりも、収益が見込めると思うがいかがか。

町) ニーズに見合った施設利用のあり方を検討する必要があるため、体育館機能以外の利活用の事例として、ご意見いただいたことを感謝申し上げる。

コ) 公園を囲ってドッグランをし、また、体育館でもドッグランをするという両方の意見ということでよいか。

メ) 晴れた日は公園で、雨が降ったら体育館で利用することを想定する。雨が降ったときに利用できる施設があまり無いため、需要はあるかもしれない。

コ) 主催する団体は町内にあるのか。

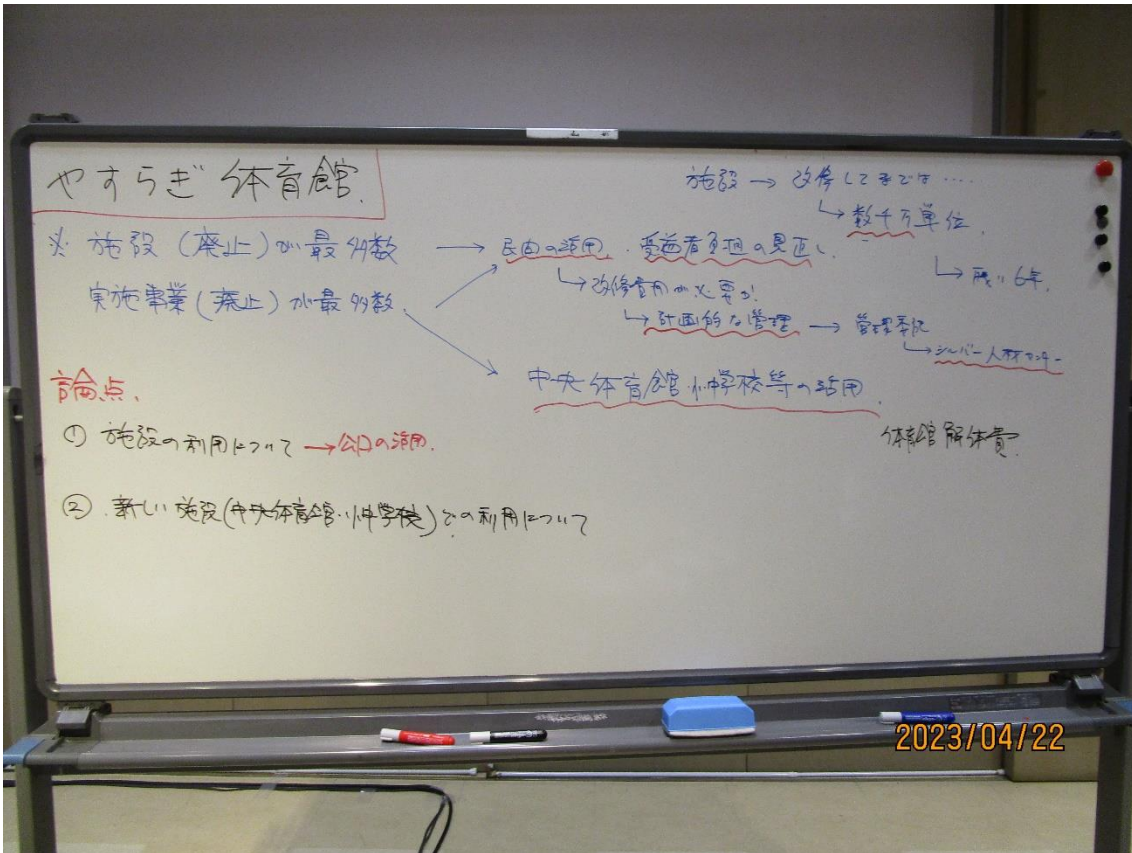
メ) 町内では分からないが、他の都道府県では企業が廃校を利用して、ドッグランやトリミング、学校のプールを利用した犬のプールなどを去年から実施しており、結構収益を上げている事例があったので、こちらでも実施できるのではないか。

コ) 町民が使わなくなった後、そのような活用は考えられる。町民の利用という同時に使うのは難しい。

メ) 今使われている方は、小学校の体育館や中央体育館に完全に移行してはどうか。

コ) 柔軟な発想の意見をいただき感謝申し上げます。やすらぎ体育館の論点である、耐用年数まで施設をどのように利用したら効率的に活用できるか。そして、中央体育館や小中学校に機能を移転する際にはどんな問題を解決すべきかをご提案いただきたい。

ホワイトボードの写真



③ 老人福祉センターについて

コ) 老人福祉センターについて、施設のあり方については、耐用年数が近づいているので、近い将来廃止もやむを得ないという意見が最多数、事業については内容を見直すという意見と、実施施設を見直すという意見の二つに分かれている。内容の見直しというのは入浴サービスの対象者の問題等で、実施施設を見直すというのは、やはり入浴サービスは他の入浴施設がある場所で実施、高齢者の集う場所については場所を特定しなくともどこでもできるという意見があった。ポイントは入浴サービスの事業を今後どうするか、老人福祉センターが高齢者のコミュニティを形成する場とするならどんな場所を使えば今後町民のコミュニティの場として活用できるかということだと考える。前回の結果を踏まえて、町の担当者の意見を聞いていきたい。

町) 老人福祉センターは、高齢者が健康で豊かに楽しい生活を営んでいくことを目的に、昭和50年に建築された施設で、既に築後48年が経過している。設備の老朽化により、軽微な修繕で年間50万円程度、令和元年度には浴室の給排水管の水漏れにより124万2000円の修繕費用が発生した。現在は指定管理者を導入し、年間2600万円の管理料がかかっている。

る。施設レビューにおいて、今後のあり方について廃止という意見を最も多くいただいた。また、実施している事業については、事業自体は継続するものの実施施設を再検討する必要があるとの意見をいただいた。現在実施している事業は老人クラブの団体利用、浴場の運営、ゲートボール場の運営、保健師による健康相談、茶道教室、体操教室などの介護予防教室である。新たに今年度から世代間交流、障害者支援施設との連携、専用ホームページの作成等の新たな取り組みを進めているところであるが、施設を廃止した場合、これらの事業を別の施設で実施できるのかという論点が出てくる。その点は、町の他の施設を活用することで継続可能であると考えている。老人クラブの団体利用であれば、町の施設である、ふれあいセンターにも大広間があり、そちらを活用することで継続は可能と考えている。しかし、ふれあいセンターでも現在実施している事業があることから、ある程度の調整は必要と考えている。浴場についても、ふれあいセンターなどの町内の温浴施設を利用することで代替は可能である。介護予防教室は青垣学習センターや道の駅の貸館事業を活用すれば継続は可能であると考えている。ゲートボール場の運営は、はせがわ展望公園に3か所あるゲートボール場を利用することで需要を満たせると考えている。保健師による健康相談はふれあいセンターでも実施している。長寿介護課では、地域の高齢者の方々が社会参加、生きがいづくり、健康で住みなれた地域で活動するために、地域の公民館など町内47カ所でいきいき100歳体操を実施し、また、健幸ポイント事業という、健康増進のために、活動量計を持って歩く歩数に応じてポイントが付与される、貯まったポイントは、町内で使用できる地域商品券に交換できる事業を実施している。健康で幸せになるということで、健幸の方は幸せの漢字を使っている。そのため、田原本町の高齢者の方々は、活動的な方が多くなっている。また、デイサービス事業所の増加や、住宅改修、福祉用具などの普及により、老人福祉センターの活用方法も昔と比べ変化しており、時代に合った施設のあり方や施設が廃止となった場合でも、事業実施方法を皆様と協議できればと考えている。

コ) 老人福祉センターというのは、高齢者のための様々なサービス、コミュニティ形成の場としての拠点施設であった。築後48年経過し老朽化して、この施設が使用できなくなった場合、特定の拠点施設でサービスを継続するのではなく、それぞれに見合った相応しい施設で実施することができるので、今後拠点施設は持たない。こういう方向性になると。先の保健センターが機能を役場の側に集約し、連携を深めるというのと、老人福祉センターは、町民が利用する施設は、例えば健康相談はもっと近い場所で行う、そういう転換が今後出来るんじゃないかという提案だと思う。もっとこうした方がいいというような意見があればどうか。

メ) コーディネーターが言ったように、建築時の40年前と社会情勢が大きく変わっている。その時無かった施設も今はたくさん出来ているので、そちらに分散して出来ていけばいいと考える。

コ) 分散する中で、いろんな施設の名前が出てきたが、サービスによって分かれているということで大丈夫か。例えば駐車場の広い青垣に集約した方がいいとか、そういうことは無い

か。

メ) それは行政の方で考えてもらい、横の連携をしっかりとってもらいたい。担当者が変わったら、わからないっていうのがかなりあるので、異動した場合はちゃんと引継ぎをして、横の関係はプロジェクトを作って、絶えずミーティングを行い、どの部署でも対応できるような体制づくりが必要であると考え。

メ) 地区の老人会で利用するのに便利であるし健康相談もやっている、大広間での会食も楽しい、非常にいい場所である。施設の老朽化というのは避けて通れない問題であるが、今のままで残してもらいたい。ゲートボール場もグラウンドゴルフ場として綺麗に整備してもらえばいいと思う。分散してはどうかという意見についても、利用する側はマイクロバスがあつて非常に使い勝手がよいので何とか継続してってもらいたい。

コ) 様々な施設に分散した場合、マイクロバスについての考えはあるか。例えば自治会や老人会から要望があれば、利用する施設まで送迎するサービスなどの想定はあるか。

町) まだ、検討はしていないが、公共交通、コミュニティバスを検討しているというのは聞いている。そちらも利用いただければと思う。

コ) 拠点施設としての特定の施設は作らないとなると、高齢者の方のアクセス、交通機関をどのようにするかというのはセットで考える必要がある。

メ) 体育館の話と繋がってくるが、両方とも施設の廃止となると、周辺に建物が無くなってしまう印象があるが、災害時の避難所等になっていないのか。

町) 現在、やすらぎ体育館については周辺の避難所になっている。当然体育館をもう利用しないとなれば、近辺の平野小学校等に避難所を変更するという事も検討していきたい。老人福祉センターについては、現在避難所としては対象になっていない。

メ) 現状続けるのは難しいと思うが、ふれあいセンターへのアクセスが出来るのであれば可能と考える。体育館の件について、どこかに売却しない限り解体費用はついて回るが、その辺の数字が出てこないなので、例えば更地にした場合どうなるのか、細かい数字も書いてもらいたい。

町) 老人福祉センターについては、今後 35 年間更新等が続けた場合の維持費の試算は 11 億 3900 万円、2027 年に解体するとしたら、1 億 3900 万円で維持費が止まる。約 10 億円程の経費は削減される見通しである。あくまでおおまかな試算であるが。

メ) 解体費用は含まれていないでいいか。

町) 調べさせていただき、後ほど回答させていただく。

コ) 皆さんにぜひ考えていただきたい意見は、入浴サービスについてである。高齢者なら誰でも入浴できるってサービスを継続するよう要望するのか、見直しについて、行政側に提案するのか、住民協議会として施設をまとめたらどうかっていう提案をしていただくときに、この入浴サービスをどうするか意見をお聞きしたい。

町) 先ほどの解体費用について、回答させていただく。解体費用も含んで試算した金額となっている。35 年間維持した場合、解体費込みで 11 億 3900 万円ほどである。2027 年に解体



する場合は解体費用込みで1億3900万円と試算している。解体費については約3100万円  
で試算している。

コ) 改善提案シートについて、論点の1点目は、今ある施設を最大限活用するなら、どうい  
う活用方法をとることが最適か。論点の2点目は老人福祉センターの場合これが一番のポ  
イントだと思うが、サービスを実施する施設を他の施設にどのように機能分散していくの  
か。という点について記載していただきたい。老人福祉センターの今後のあり方は、今回の  
田原本町の公共施設の見直しの大きなポイントの一つであるのでぜひ様々な視点で意見を  
いただき、それを集約した形で行政サイドに提案していきたいと思う。

メ) 2027年に仮に事業廃止、解体したとしたら、その後の予算が10億近く浮いてくると、  
その予算を次の事業に回していけるので将来的にはいいのではないかと思う。ただそれは、  
解体するということが前提で、廃止したときに、その跡地をどう活用するかということに、  
その費用を活用していけば新しい出費は出てこないと考える。問題は今ある施設の代替を  
どうしていくかを考えていかないとは思いますが、ある程度は計画されていると思うので、腕前  
を拝見したいと思う。

コ) 子どもは対象者が減少しているから、サービスを手厚くして子どもがもっと増えるよう  
にしている。高齢者は対象者が増加し続けているので、今までと同じ対象年齢で高齢者サー  
ビスを続けていたら費用がかさんでいく。世の中が変わって、20年前の65歳と今の65歳  
は全然違う。対象年齢が同じまま対象者を増やすことが現実的には難しく、高齢者と子ども  
への事業展開というのは全国的に大きな課題である。田原本町が老人福祉センターの見直  
しをきっかけに、高齢者サービス全体を見直すきっかけになれば一つの大きな効果ではな  
いかと考える。

ホワイトボードの写真

